

活動例7〔人とかかわり ー共同ー〕 4歳児 3学期

『的あてゲーム』

育てたい力

- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる心
- ・友達に自分の思いや考えを伝える力

経験させたい内容

- ・友達と一緒に遊ぶには、共通のルールが必要なことに気付く。
- ・友達や保育者と一緒に、遊びに必要なルールを作る。

4歳児2月 事例

〔クラスの実態〕

3～4人の気の合う友達と一緒に、固定遊具やなわとびをしたり、ごっこ遊びや遊びに必要なものを作ったりと、好きな遊びを楽しむ姿が見られる。また、友達がしている遊びに興味を持ち、積極的ににかかわる姿も多く見られる。

しかし、まだ、自分の思いの方が強く、相手の意見を受け入れるまではいかにトラブルになったり、自分の都合のいいように遊びを進めてしまったりする幼児もいる。

〔活動の流れ〕

夏祭りで、的あての経験をしてから、好きな遊びの中での的あてゲームに興味を示すようになり、「的あてゲームをやりたい」と言いにくる姿が見られるようになる。保育者が牛乳パックや空き箱を用意すると、自分たちで描いた絵を牛乳パックに貼ってのを作ったり、新聞紙を丸めてボールを作ったりしてのあてを楽しむようになる。

〔指導や環境の工夫〕

- ・友達との遊びの中で自分の思いや考えが言えるように、状況を整理したり原因を明確にしたりして、話しやすい場を作っていく。
- ・友達との遊びが楽しくなるように、遊びに必要なルールを作っていけるように働きかける。
- ・友達と一緒に取り組む遊びの楽しさを伝えていく。

〔エピソード〕 『ボール3回投げたら交代ね』

【記録前の様子】 4人の幼児が、牛乳パックで作った的をテーブルに並べて、的あてゲームで遊び始める。一人がお店屋さんになり、的が倒れたら直す係になる。後の3人は広告紙で作ったボールを持ち、線のところに並んで、的に新聞紙で作ったボールをあてる。



『ボール3回投げたら交代ね』 Y児とE児は、持っているボールを1回投げると、的が倒れても倒れなくても次の友達と交代する。しかし、S児は自分の番になると、全部の的が倒れるまでボールを投げる。なかなか的が倒れないので、並んでいたY児とE児が、「S君1回投げたら交代だよ。」と言うが、S児は、「だって、一個も倒れないんだもの。」と言い、ボールを投げ続ける。

Y児とE児はしばらくS児の様子を見ていたが、その後もなかなか的が倒れないので、Y児とE児は、順番が回って来ないことを保育者に言いに来る。保育者はS児を呼んで三人に状況を確認しながら、こういう時はどうしたらいいか尋ねる。S児は、「だって1個も倒れないんだもの。」と言い、Y児とE児は「でも、それじゃあ、なかなか順番が回って来ないよ。」と言う。そのやり取りを見ていた、お店屋さん役のU児が「じゃあ、3回投げたら次の人と交代すればいいんじゃない？」と提案する。Y児、E児、S児も「それがいい!」と賛成したので、保育者は、みんなの考えたルールを確認し、自分たちで解決できたことを認めた。

【その後】 話し合いの結果、的を立てる係とボールを渡す係に分かれてゲームのお店屋さんを続けた。自分たちで話し合っただけでトラブルを解決したことで、遊びを楽しむためには必要なルールがあることに気づき、トラブルになった時には話し合おうとするようになってきている。

予想される活動例

- ・なかあて
- ・転がしドッジボール
- ・鬼ごっこ
- ・お店屋さんごっこ

〔5歳児への学び〕

- ・友達と一緒に、遊びのルールを作ったり、守ったりして遊べるようになる。
- ・友達に自分の考えを伝えたり、友達の思いを受け入れたりして、一緒に遊びを進めようとするようになる。